



‘本物’にふれる 歴史授業

教育コンテンツのご案内【小・中学生向け】

愛知県埋蔵文化財調査センター

1 出前授業を実施しています

歴史的思考力を養う体験学習

アクティブ・ラーニング
主体的・対話的で深い学び

当センターの出前授業の特徴

➤県内各地で出土した本物を用いて授業を行います！

当センターは愛知県内各時代の出土遺物を保管しています。



2千年前の壺だって！触
っちゃっていいの
かな？

重いぞ！これは何に使っ
たのだろうね？



弥生時代の土器にもいろ
んなタイプがあるなあ。



出前授業の様子

出前授業では発掘調査で出土した遺物を実際に手に取り観察することを通して、その特徴や使用方法、使われた時代などを自ら考える「アクティブ・ラーニング」（主体的・対話的で深い学び）を導入しています。教科書や資料集に記載されているものを体感することによって、普段の授業で習う知識の定着にも結び付きます。

授業を受けて頂いた児童・生徒のみなさんの授業後アンケートから「本物に実際に触れることができ、分かりやすかった」「考古学に興味を持った」という感想が寄せられており、大変盛況な内容となっています。

出前授業実物教材メニュー

旧石器時代

打製石器 左から凝灰岩、黒曜石、サヌカイト(西牧野遺跡 岡崎市)



愛知県でも旧石器時代の遺物は出土しています。1 万年以上昔の人の道具には歴史のロマンを感じさせます。



オススメの遺物

縄文時代

縄文土器 深鉢(モリ下遺跡 新城市)



縄文晩期の深鉢。縄文が施されています。分厚く熱伝導が悪いため、少しでも薄い側面に火を当てて使用しました。

石鏃(西牧野遺跡 岡崎市)



縄文時代の狩猟など、弓矢の矢じりとしてに用いられたもので、指先ほどの小さなものです。

石匙(牛牧遺跡 名古屋市)



皮などを剥ぐ道具です。上部の突出したところはつまみとして、または紐を巻き首や腰から下げて使用したと考えられています。

石皿・磨石(八王子遺跡 瀬戸市)



ドングリ、クルミなどをすりつぶすのに用いました。

打製石斧(牛牧遺跡 名古屋市)



石を砕いて作られ、磨きはかかっています。伐採具、木工具、掘工具などとして用いられました。縄文時代では一般的な石器です。

弥生時代

弥生土器 壺(一色青海遺跡 稲沢市)



壺は転ばないように安定したつくりになっています。さらに口を小さくし、こぼれにくくする工夫があります。

甕(一色青海遺跡 稲沢市)



甕は煮炊きに使われました。熱効率を上げるため薄くつくられています。

高杯(東光寺遺跡 幸田町)



高杯は盛付用の食器として、またお供用の器として使用されました。

磨製石斧(一色青海遺跡 稲沢市)



柄に取り付け木などの加工に使っていました。ハイアロクラスタイトという石で作られています。

石鏃(一色青海遺跡 稲沢市)



縄文時代の狩猟用に比べ大きく、長くなっています。一説には戦闘用に用いられたといわれています。

石包丁(名古屋城三の丸遺跡 名古屋市)



この石包丁は美しく、博物館からの借用依頼が多いです。是非手に取ってみてください。



古墳時代

土師器 S字甕(廻間遺跡 清須市)



弥生土器の系統をひく土師器の甕です。熱効率をよくするため、炎が底に当たるよう、台付になっており、とても薄くできています。手に取ったとき、あまりに軽くて驚くと思います。古代の技術の高さを感じ取ることができます。

* 弥生時代のS字甕もあります

須恵器 長頸壺(須長10号墳 新城市)



朝鮮半島からの新しい技法で焼かれた須恵器です。窯を使って高温で焼かれたため、硬質で、灰色をしている場合が多いです。この高坏は古墳の中から出土しました。

別遺跡から出土した勾玉も貸出しできます。

奈良時代

須恵器 甑(上品野蟹川遺跡 瀬戸市)



カマドが出現し、調理器具も変化しました。古代人はカマドの上に甕を据え、その上に甑を重ね、米を「蒸して」食べていました。山上憶良の貧窮問答歌に、蜘蛛の巣が張って使用されていない調理器具が出てきますが、まさにこれなのです。写真は同じ甑の側面と底部を写しています。

平安時代

灰釉陶器(孫田遺跡 豊田市)



灰釉陶器(上品野蟹川遺跡 瀬戸市)



灰釉(植物を燃やした灰)がかけられた陶器です。釉薬がかけられて焼かれた最初の陶器になります。愛知県では大量に生産され、寺院や官衙跡だけでなく庶民の集落跡からも出土しています。

鎌倉時代

山茶碗(下津新町遺跡 稲沢市)



山茶碗(細田古窯 美浜町)



山茶碗(巡間E窯跡 瀬戸市)



平安末～鎌倉・室町時代に主に東海地方で庶民に使われた無釉の陶器です。愛知県内でも知多半島、尾張、瀬戸、渥美半島など様々な所で生産されました。最初は高台もしっかりついて、丁寧な作りでしたが、次第に高台はなくなり粗雑な造りになっていきます。山の中でごろごろと沢山見つかるので山茶碗と呼ばれています。

室町・戦国時代

天目茶碗(清洲城下町遺跡 清須市)



茶釜(鷲窯跡 瀬戸市)



茶壺(上品野西金地遺跡 瀬戸市)



茶の広まりと同時に茶道具への憧れがはじまり、有力者はこぞって中国の逸品（唐物）を買い漁りました。「何とか日本でもつくれないか」現在でも陶磁器生産の盛んな瀬戸で茶道具の生産が始まりました。当センターでは県内各地から出土した室町から江戸初期にわたる茶器も豊富に保管しています。戦国大名の趣向に触れてみるにもよい教材だと思います。

金箔瓦(清洲城下町遺跡 清須市)



五三桐の瓦もあります
清洲城下町遺跡

清洲、そしてこの木瓜紋。
戦国時代が好きな人にはワクワクする逸品かもしれません。借用希望の多い収蔵品です。
*写真は信長の子、信雄の頃のものです。

江戸時代

宿場町の遺物

染付皿



茶碗



色絵徳利



通い徳利 (志賀公園遺跡 名古屋市)



(下の3点清洲城下町遺跡 清須市)

江戸時代は町人文化の時代でもあります。例えば宿場町から出土した遺物を見て、町人の生活・文化を推察するのも面白いでしょう。江戸時代、清洲は美濃路沿いの宿場町として栄えました。清洲城下町遺跡から出土した遺物を用意しています。

現代

戦争考古学

陸軍使用のボウル



“浅井”名のある湯呑 (3点名古屋城三の丸遺跡 名古屋市)



焼夷弾による被熱で溶けたガラス



名古屋城のある場所は、低地の高台であるため太古から人々が住み続け、江戸時代には徳川家康が城を築きました。明治以降、広大な敷地には練兵場も設置されました。こうしたことから名古屋城三の丸遺跡からは弥生時代から現代の物まで出土しています。
埋蔵文化財には戦争の爪痕ともいえるものもあります。軍事施設の跡からはそれに関連する遺物も出土しています。名古屋城は空襲で焼けましたが、その空襲の時のものなのでしょうか。被熱して溶けたガラスも出土しています。

出前授業実物体験メニュー

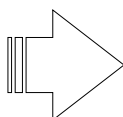
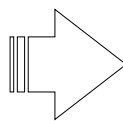
火起こし体験

古代の「マイギリ」と「ヒキリウス」を使って火起こしをしてみませんか。「火起こし」体験セットをお持ちします。



たくはん 拓本体験

本物の土器を使って拓本を取ります。拓本は報告書などにも掲載されるのですが、拓本体験ではオリジナルの葉しおりを作ることができます。



土器どキット

「土器どキット」とは各時代の土器片・陶片をセットにした実物教材です。土器片や陶片を手に取り各時代ごとの特徴を掴むことができます。また「土器どキット」は貸し出しが可能ですので、授業にご活用ください。

*借用希望の方は当センターにご相談ください。なお郵送はできませんので直接当センターまでお越しいただきます。



2 中学生の職場体験を実施しています！

文化財を護る仕事を実体験！

キャリア教育

当センターの職場体験

➤文化財の保護に関わる仕事が体験できます！

当センターでは職場体験の受け入れを行っています。当センターで働く職員と一緒に遺跡から発掘された土器などの遺物を扱って作業をします。作業は、図書台帳など文書整理のほか、土器を接着剤でつなぎ合わせる作業（接合）や土器の図を作成する作業（実測）などがあります。



土器の接合作業

どんどん元の形になっていく。



木製品の整理作業

きちっと整理することも文化財を護る大切な仕事なのだ。

この土の中から土器片、骨、貝殻が見つかったよ！



遺跡で採取した土の洗浄



山茶碗の実測

3 教員研修の実施

埋蔵文化財を活用した指導法のご紹介

教員研修の場として、当センターをご利用いただけます。

【研修内容の一例】

- ① 『埋蔵文化財調査センターの役割』『発掘調査の目的・進め方』等について説明
- ② 館内施設見学……展示品のほか、遺物整理作業の様子や収蔵庫など、普段は目にするのことができないバックヤードも見学できます。
- ③ 模擬授業……埋蔵文化財を授業に活かす授業プランの紹介



【発掘調査についての説明】



【館内展示資料の説明】



【出土遺物の実見】



【出土遺物の収蔵庫を見学】

愛知県埋蔵文化財調査センターからのご案内

愛知県埋蔵文化財調査センターは、発掘調査による出土品を適切に収蔵・活用するとともに、埋蔵文化財の調査研究・資料の収集・普及啓発などを行う中心的施設として、昭和 62 年に設置されました。

当センターが行っている一般向けの普及活動は、以下のとおりです。

『春の特別公開』

《内 容》収蔵品の中から選りすぐりの逸品を特別に公開します。

＊火起こし体験などのイベントも行います。

《開催期間》4月初旬。4月第1週の土日は特別公開日として開館します。

＊弥富市の「やとみ春まつり」にあわせて開催します。

『秋の特別公開』

《内 容》収蔵品の中から選りすぐりの逸品を特別に公開します。

＊拓本体験講座などのイベントも行います。

《開催期間》10月下旬から11月初旬。

＊年度によって、10月最終週から始まることもあります。

＊文化財保護強調週間（11月1日から7日）及び弥富市の「秋の市民文化展」にあわせて開催します。

『施設見学』『講座』

《内 容》各種団体からのご依頼に応じ、館内の施設案内及び展示品の解説、埋蔵文化財調査についての説明などを行います。

『出前講座』

《内 容》各種団体等からのご依頼に応じ、調査センター職員が出向いて「考古学」や「埋蔵文化財調査」等についての講義を行います。

◆詳細については愛知県埋蔵文化財調査センター（調査研究課）までお問い合わせください。